

【第1部】基礎編 (Q1～Q20)

- Q1. 答え：枕詞「あしひきの」(→山) 解説：「山」を導く枕詞。訳さない。
- Q2. 答え：枕詞「ひさかたの」(→光) 解説：「光」「空」「天」「月」を導く枕詞。
- Q3. 答え：枕詞「たらちねの」(→母) 解説：「母」「親」を導く枕詞。
- Q4. 答え：枕詞「くさまくら」(→旅) 解説：「旅」を導く枕詞。
- Q5. 答え：枕詞「ちはやぶる」(→神) 解説：「神」を導く枕詞。在原業平の有名な歌。
- Q6. 答え：枕詞「しろたへの」(→衣) 解説：「衣」「袖」「雪」を導く枕詞。
- Q7. 答え：序詞「風吹けば沖つしらなみ」(→たつ) / 掛詞「たつ」(立つ・龍田) 解説：「立つ」を導く序詞+「龍田山」の掛詞。伊勢物語の有名な歌。
- Q8. 答え：反実仮想「せば〜まし」 解説：「せば〜まし」反実仮想。「夢と知っていたら覚めないだろうに」。小野小町。
- Q9. 答え：掛詞「ふる」(経る・降る)「ながめ」(眺め・長雨) 解説：小野小町の有名な歌。1語に2意味の掛詞。
- Q10. 答え：詠嘆の終助詞「もがな」 解説：和泉式部の歌。「逢うことがあったらなあ」。願望の詠嘆。
- Q11. 答え：枕詞「あらたまの」(→年) 解説：「年」「月」「春」を導く枕詞。
- Q12. 答え：枕詞「あをによし」(→奈良) 解説：「奈良」を導く枕詞。
- Q13. 答え：枕詞「わかくさの」(→妻) 解説：「妻」「新」を導く枕詞。
- Q14. 答え：枕詞「ぬばたまの」(→黒) 解説：「夜」「黒」「髪」を導く枕詞。
- Q15. 答え：枕詞「しろたへの」(→衣) 解説：万葉集・持統天皇の有名な歌。
- Q16. 答え：呼びかけ(「都鳥」への呼びかけ) 解説：伊勢物語の歌。「都鳥」へ呼びかける。歌末は「ありやなしや」で、体言止めではない。
- Q17. 答え：枕詞「たまきはる」(→命) 解説：「命」「世」を導く枕詞。
- Q18. 答え：係り結び「ぞ〜惜しき」(連体形結び) 解説：「ぞ」(強調)の係り結び。修辞というより文法。
- Q19. 答え：反語「やあらぬ」 解説：在原業平の歌。「月は昔の月ではないのか、いやそうではない」(反語)。
- Q20. 答え：掛詞「ふり」(降り・古り) / 縁語「雪」と「ふる」 解説：桜花を雪に見立てる。縁語の典型。

【第2部】標準編 (Q21～Q50)

- Q21. 答え：枕詞「あかねさす」(→紫) 解説：額田王の歌。「紫」「日」「昼」を導く。
- Q22. 答え：枕詞「からごろも」(→着) / 序詞的展開 解説：在原業平。「着」を導く枕詞、以降は序詞的に妻への思いを展開。
- Q23. 答え：枕詞「あづさゆみ」 解説：「あづさゆみ(梓弓)」は本来「引く・張る・射る・本・末」を導く枕詞。ここでは弓を「張る」と春の「はる」の同音利用で「春」にかかる用法。枕詞自体は訳出しないのが原則。
- Q24. 答え：掛詞「ふる」(古・降る) 解説：「ふるさと」の「ふる」に「降る」がかかる。雪のイメージ連動。
- Q25. 答え：掛詞「まつ」(松・待つ) / 「いなば」(往なば・因幡) 解説：在原行平。地名「因幡」と「往なば」、植物「松」と動詞「待つ」の二重掛詞。
- Q26. 答え：掛詞「ふみ」(文・踏み) 解説：小式部内侍。「踏み」(道)と「文」(手紙)の掛詞。

- Q27. 答え：体言止め（「花」） 解説：凡河内躬恒。「花」で締める体言止め。
- Q28. 答え：係り結び「ぞ～ける」（連体形結び） 解説：「ぞ」の強調。夕暮れの涼しさをみそぎに譬える。
- Q29. 答え：倒置法／反復「つつ」 解説：光孝天皇。「降りつつ」で結ぶ詠嘆的倒置。
- Q30. 答え：掛詞「しのぶ」（忍ぶ・偲ぶ）／縁語「色」「出づ」 解説：平兼盛。「色」と「出づ」の縁語。
- Q31. 答え：掛詞「まつ」（松・待つ）／縁語「焼く」「もしほ」「こがれ」 解説：藤原定家。火と恋の縁語連鎖。
- Q32. 答え：枕詞「しろたへの」 解説：「しろたへの（白妙の）」は本来「衣・袖・雪・雲・たもと」などを導く枕詞。この歌では富士の白さを修飾する転用例。原典は『万葉集』山部赤人（『新古今和歌集』『百人一首』にも採録）。「白妙」は楮（こうぞ）の繊維で織った白い布で、白色のイメージを喚起する。
- Q33. 答え：係り結び「ぞ～らむ」（連体形結び） 解説：「ぞ」の強調＋「らむ」の現在推量。
- Q34. 答え：反実仮想「せば～まし」 解説：小野小町。「夢と知っていたら覚めなかったろうに」。
- Q35. 答え：掛詞「玉の緒」「ながらへ」（永らえ）／命令と仮定 解説：式子内親王。命と緒の縁語。
- Q36. 答え：体言止め（「空」）／縁語「夢」「浮橋」 解説：藤原定家。新古今集の象徴的歌。
- Q37. 答え：体言止め（「夕暮」） 解説：西行。三夕の歌の一首。
- Q38. 答え：体言止め（「夕暮」） 解説：藤原定家。三夕の歌。
- Q39. 答え：体言止め（「夕暮」） 解説：寂蓮。三夕の歌。
- Q40. 答え：枕詞「ひさかたの」（→光） 解説：紀友則。古今集の名歌。
- Q41. 答え：係り結び「ぞ～吹く」（連体形結び） 解説：大納言経信。「ぞ」の強調。
- Q42. 答え：序詞「風をいたみ岩うつ波の」（→砕け） 解説：源重之。波の砕ける情景で恋心の砕けを導く序詞。
- Q43. 答え：擬人法／反語「やは」 解説：西行。「月が嘆かせるのか、いや違う」と反語。
- Q44. 答え：掛詞「かれ」（枯れ・離れ） 解説：源宗于。「人目が離れる」と「草が枯れる」の掛詞。
- Q45. 答え：縁語「滝・流れ・聞こえ」／掛詞「な」（名・無） 解説：藤原公任。滝に関する縁語連鎖。
- Q46. 答え：枕詞「ちはやぶる」（→神）／倒置法 解説：在原業平。百人一首。歌末は助詞「とは」で終わっており体言止めではない。「からくれなゐに水くくるとは（神代にも聞かない）」と下から上へ返る倒置。
- Q47. 答え：縁語「山・風・嵐」＋字義遊び（離合詩風） 解説：文屋康秀。「嵐」という漢字を「山」＋「風」と分解する字義遊び。同時に「山」「風」「嵐」が縁語として響き合う。古今集・百人一首22番。なお「折句」は各句頭の文字を続けて意味を作る修辞で、別の技法。
- Q48. 答え：詠嘆「けり」 解説：権中納言敦忠。文末の詠嘆。
- Q49. 答え：序詞「由良のとを渡る舟人かぢをたえ」（→ゆくへも知らぬ） 解説：曾禰好忠。舟が漂う情景で恋の不安を導く序詞。
- Q50. 答え：係り結び「こそ～ね」（已然形結び、逆接） 解説：恵慶法師。「人は見えないけれど秋は来た」（逆接）。

【第3部】応用編（Q51～Q80）

- Q51. 答え：係り結び「こそ～けれ」（已然形結び） 解説：大江千里。「こそ」強調。
- Q52. 答え：掛詞「たび」（旅・度） 解説：菅原道真。「このたび」の「たび」が「旅」と「度」の掛詞。
- Q53. 答え：掛詞「あふ」（逢ふ・逢坂）「くる」（来る・繰る）／縁語 解説：三条右大臣。蔓植物（さねかづら）と「繰る」の縁語。
- Q54. 答え：擬人法 解説：藤原忠平。紅葉を人格化。

- Q55. 答え：詠嘆「もがな」／意味反転 解説：藤原義孝。「命長くあつてほしい」の願望。
- Q56. 答え：係り結び「こそ〜けれ」（已然形結び） 解説：紀貫之。「こそ」の強調。
- Q57. 答え：序詞「風吹けば沖つしらなみ」（→たつ） 解説：伊勢物語。「白波が立つ」で「龍田山」を導く序詞。
- Q58. 答え：序詞的展開・縁語「川・千鳥」 解説：紀貫之。冬の景物連鎖。
- Q59. 答え：係り結び「こそ〜ね」（已然形、逆接）／反語「やは」 解説：凡河内躬恒。「色は見えなくても香は隠れない」。
- Q60. 答え：体言止め（「玉水」）／縁語「松・雪」 解説：式子内親王。新古今集。
- Q61. 答え：体言止め（「夕暮」） 解説：藤原定家。本歌取り（万葉集を踏まえる）。
- Q62. 答え：縁語「玉・緒・絶え」／掛詞なし 解説：式子内親王。玉と緒の縁語。
- Q63. 答え：係り結び「ぞ〜残れる」（連体形） 解説：後徳大寺左大臣。
- Q64. 答え：縁語「八重・九重」／詠嘆「かな」 解説：伊勢大輔。「八重」（八重桜）と「九重」（宮中）の数の縁語。
- Q65. 答え：体言止め（「網代木」） 解説：藤原定頼。
- Q66. 答え：擬人法（山桜への呼びかけ） 解説：行尊。山桜を人として語りかける。
- Q67. 答え：願望「なむ」 解説：大江匡房。「たたないでほしい」と願う。
- Q68. 答え：掛詞「はつせ」（初瀬・果つせ）／序詞 解説：源俊頼。地名「初瀬」と動作の掛詞。
- Q69. 答え：縁語「露・命・消ゆ」 解説：藤原基俊。露のはかなさを命に重ねる。
- Q70. 答え：見立て（紅葉を錦に）／詠嘆「けり」 解説：能因法師。錦に見立てる比喻。
- Q71. 答え：体言止め（「夕暮」） 解説：良暹法師。三夕系の歌。
- Q72. 答え：擬人法「おとづる」／係り結び「ぞ〜吹く」 解説：大納言経信。稲葉が訪れる擬人法。
- Q73. 答え：序詞「音にきく高師の浜のあだ波は」（→かけじ） 解説：祐子内親王家紀伊。波の縁語「かけ」「ぬれ」。
- Q74. 答え：縁語「松・友」／本歌取り 解説：藤原興風。松の長寿と友の対比。
- Q75. 答え：詠嘆「かな」／文末の感嘆 解説：謙徳公。
- Q76. 答え：序詞「由良のとを渡る舟人かぢをたえ」 解説：曾禰好忠。舟の漂流で恋路の不安を導く。
- Q77. 答え：体言止め＋詠嘆「かな」／縁語「めぐる・月」 解説：紫式部。月の縁語。
- Q78. 答え：序詞「有馬山みなの笹原風吹けば」（→いでそよ） 解説：大式三位。笹のそよぐ音で「そよ（そうだ）」を導く序詞。
- Q79. 答え：掛詞「よ」（夜・世）／関連語「鳥・関」 解説：清少納言。中国故事を踏まえる本歌取り。
- Q80. 答え：掛詞「ふみ」（文・踏み）／地名「いく野」（生野・行く） 解説：小式部内侍。二重の掛詞。

【第4部】入試レベル（Q81～Q100）

- Q81. 答え：体言止め（「空」）／本歌取り（源氏物語「夢の浮橋」巻名） 解説：藤原定家。源氏物語最終巻名を借りる本歌取りの典型。
- Q82. 答え：本歌取り（万葉集・長奥麻呂「苦しくも降りくる雨か三輪の崎佐野のわたりに家もあらなくに」） 解説：藤原定家。万葉の本歌をふまえる。
- Q83. 答え：本歌取り（坂上是則の歌）／縁語「衣・うつ」 解説：藤原雅経。本歌取りの典型。
- Q84. 答え：体言止め系（地名止め） 解説：長奥麻呂。万葉集の歌。

Q85. 答え：「もぞ」の懸念表現／縁語「玉・緒・絶え・弱り」 **解説：**式子内親王。「もぞ～する」で「～したら困る」の意。

Q86. 答え：終助詞「ばや」（自己の願望）＋終助詞「な」（詠嘆） **解説：**殷富門院大輔。下二段「見す」未然形「見せ」＋自己願望「ばや」＋詠嘆「な」で「見せたいなあ」。願望と詠嘆の二語が連続した「ばやな」の形。百人一首90番、新古今和歌集。

Q87. 答え：本歌取り（万葉集・人麻呂歌）／推量「む」 **解説：**後京極摂政。本歌取り中の本歌取り。

Q88. 答え：序詞「我が袖は潮干に見えぬ沖の石の」（→乾く間もなし）／係り結び「こそ～ね」 **解説：**二条院讃岐。海中の石で袖の濡れの永続を導く。

Q89. 答え：序詞「渚漕ぐあまの小舟の綱手」（→かなしも）／詠嘆「もがもな」「も」 **解説：**源実朝。

Q90. 答え：掛詞「ふる」（古・降る）／縁語「白雪・降る」 **解説：**坂上是則。

Q91. 答え：体言止め＋詠嘆「かな」 **解説：**三条院。夜半の月の余韻。

Q92. 答え：体言止め（「白雪」）／見立て（雪を月に） **解説：**坂上是則。

Q93. 答え：序詞「浅茅生の小野の篠原」（→しのぶ）／掛詞「しのぶ」（忍ぶ・篠生） **解説：**参議等。篠原で「しのぶ」を導く序詞＋掛詞の典型。

Q94. 答え：反語「とかは知る」 **解説：**右大将道綱母。「ご存じか、いや知らないでしょう」。

Q95. 答え：体言止め＋詠嘆「かな」／縁語「めぐる・かげ・月」 **解説：**紫式部。

Q96. 答え：詠嘆「かな」／反実仮想「まし」 **解説：**赤染衛門。「寝てしまえばよかったのに」の反実仮想。

Q97. 答え：体言止め＋掛詞「いく野」（生野・行く）「ふみ」（踏み・文） **解説：**小式部内侍。複合修辞の傑作。

Q98. 答え：詠嘆「かな」／縁語「来・待つ・月」 **解説：**素性法師。「来る」と「待つ」の対比。

Q99. 答え：見立て（紅葉を錦に）／詠嘆「けり」 **解説：**能因法師。

Q100. 答え：掛詞「まつ」（松・待つ）／縁語「焼く・もしほ・こがれ」 **解説：**藤原定家。複合修辞の入試最頻出歌。